

コリント
第一
②

「内住の聖霊に
信頼しよう」

コリント人への手紙 I 2章 神の知恵 聖霊

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. パウロの宣教 2章1～5節
- II. 神の知恵 2章6～9節
- III. 聖霊の働き 2章10～16節
- IV. まとめと適用

愚かな者に働く聖霊への信頼こそ



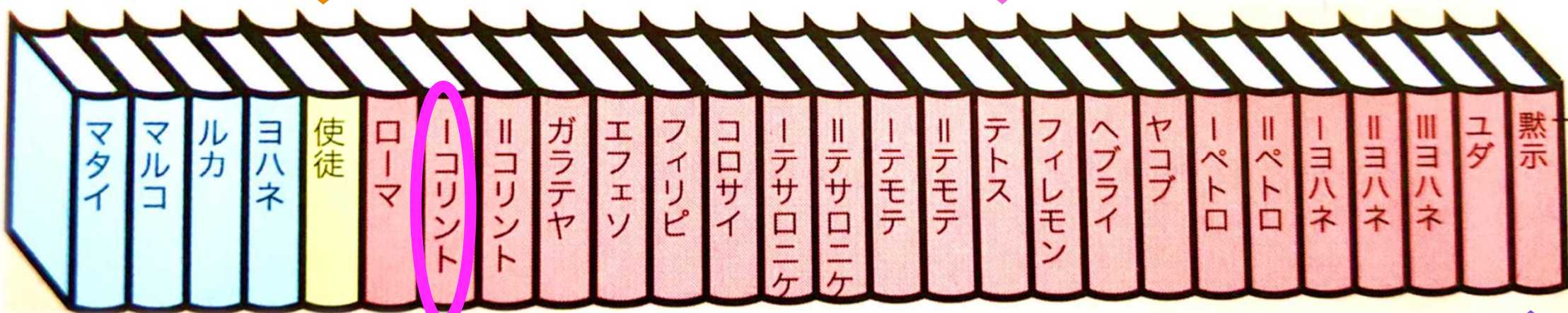
【新約聖書の中の書簡・手紙】

【使徒の働き】

教会の始まり

【書簡・手紙】

使徒たちによる手紙 メシアの教え



【福音書】

メシアの生涯

パウロ書簡

【黙示録】

聖書預言の集大成
終末預言

【コリント人の手紙とは？】

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中。
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ。
この後、コリントを再訪。
- **対象** …コリントのキリスト者たち。
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し信仰の成長を促す。



【著者のパウロについて】

- ヘブル名：サウル(サウル) ギリシャ名：パウロ
- ベニヤミン族。離散のユダヤ人。
キリキア(トルコ)のタルソ出身。生来のローマ市民。
- 元パリサイ派の**律法学者**。
稀代の律法教師ガマリエルの弟子。
- キリスト者迫害の先鋒だったが、ダマスコへの途上、
主イエスと出会い、回心。**使徒**とされる。
- 最初の神学者とも。最も多くの書簡を記す。
- 伝承では、60年頃にローマにて**殉教**。



序文		1:1～9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10～4:21
	②罪に対する懲戒	5:1～13
	③裁判の問題	6:1～8
	④性的放縦の問題	6:9～20
質疑応答	①結婚	7:1～40
	②偶像に捧げた肉	8:1～11:1
	③礼拝における秩序	11:2～34
	④聖霊の賜物	12:1～14:40
	⑤復活	15:1～58
	⑥献金	16:1～12
あいさつ		16:13～24



【福音の広がり】

- 第2回伝道旅行でパウロはギリシャへ
- コリントへの訪問時、パウロの働きから、コリントに地域教会が誕生。



【当時のコリント】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都
自由民20万人 + 奴隷50万人 = 計70万人
- 国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の代名詞。「コリント人のように」
少年への性愛や複数の愛人も当然。
- かつては海洋民族フェニキヤが支配。
アシュタロテ礼拝が根付く(ペリシテも)。
神殿娼婦の存在も。偶像崇拝が蔓延。



コリントの遺跡
アクロポリスの丘

【苦難続きだったパウロのギリシャ宣教】

- ①最初の町ピリピでは、鞭打ちの上、投獄。
- ②テサロニケでは、3週の滞在で迫害、脱出。
- ③ベレアでも迫害。同行のシラス、テモテを残し、パウロ単独でアテネへ。
- ④哲学の町アテネで嘲笑され、コリントへ。
- ⑤コリントでも迫害に。
しばらく後、シラス、テモテと合流。



【パウロの伝道旅行の苦難】 II コリント11:24~27

ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、労し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。

この多くの苦難は、第2回伝道旅行のギリシャでのこと

【パウロのコリント宣教】 使徒18章

- アキラ&プリスキラ、伝道者夫婦との出会い。
→後々まで大切な宣教の同労者に。
- ユダヤの会堂から追放、隣の異邦人の家へ。
迫害の中、ユダヤ人、コリント人の信者も。
- 「この町には私の民がいる」 主に励まされ、
第二次伝道旅行で最長の1年半滞在。
- 総督に訴えられ会堂司ソステネ*が鞭打ちに。
→コリネ1:1のソステネと同一人物か。



コリントの町の遺跡と
アクラ(丘)コリント

I. パウロの宣教 コリント I 2章1～5節



アクロコリントから臨むコリント

【コリントでの宣教姿勢】 コリントー2:1～2

兄弟たち。私があなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵*を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。

なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまい*と決心していたからです。

*ギリシヤ的、人間的な弁論術など用いないで。

*知る …ヘブル的には、単なる知識ではない。
一体化を示す。 例)「男が女を知る」

■ 困難な時こそ、福音宣教に全力投球すべき!!



【弱さの内に働かれる神】 コリント2:3～5

あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました*。

そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。

それは、あなたがたの信仰が、人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためだったのです。

*度重なる迫害を受け、孤独だったパウロ。

「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」 Ⅱコリ12:9





II. 神の知恵 コリント人 I 2章6~9節

【神の知恵・神の奥義】 コリントー2:6～7

しかし私たちは、成熟した人たちの間では**知恵**を語ります。この知恵は、この世の知恵でも、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。

私たちは、**奥義***のうちにある、隠された神の**知恵**を語るのもあって、その**知恵**は、神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から定めておられたものです。

*メシア以前、旧約時代には隠されていたこと。

*メシアによる罪の贖いと復活。

■神は世界を創られる前から、イエス・キリストの十字架による罪の贖い、死、復活を計画されていた。



【神の知恵とメシア預言】 コリント2:8～9

この知恵*を、この世の支配者たち*は、だれ一人知りませんでした*。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった*」と書いてあるとおりでした。

*メシアの贖いによる罪からの救い

*究極がサタン(エペソ2:2)

*知識にとどまるなら、“知る”とは言わない

*イザヤ書64:4からの引用。再臨のメシアの預言。



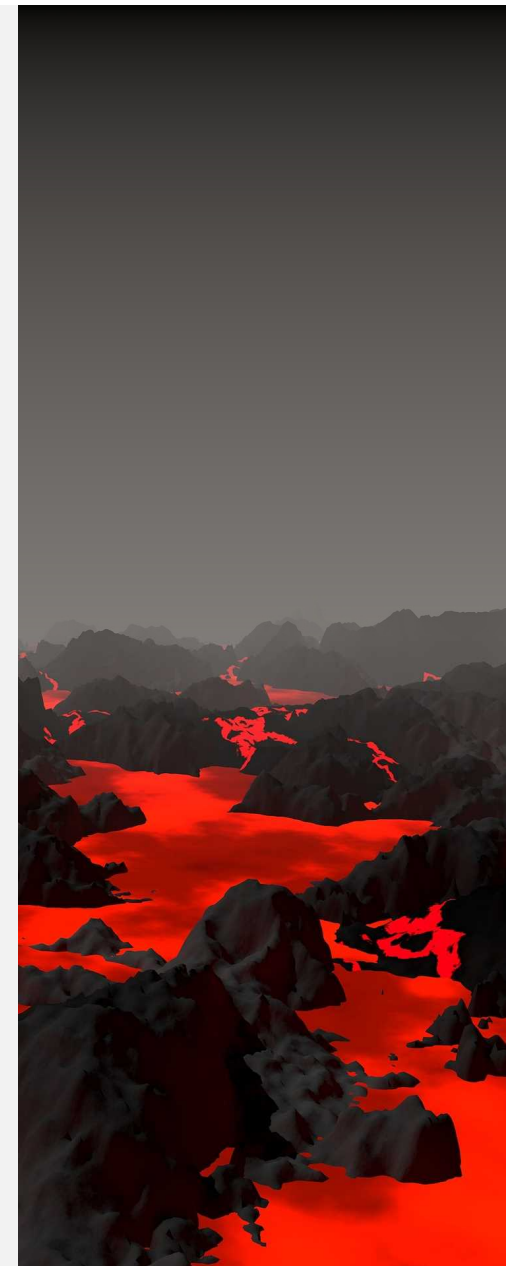
【再臨のメシア預言】 イザヤ書64:1~4

ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。

火が柴に燃えつき、火が水を沸き立たせるように、あなたの御名はあなたの敵に知られ、国々はあなたの御前で震えます。予期しない恐ろしいことをあなたが行われるとき、あなたは降りて来られ、山々はあなたの御前で揺れ動きます。

とこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目を見たこともありません。あなた以外の神が自分を待ち望む者のために、このようにするのを。

- 大患難時代の最期、悔い改めたイスラエルの叫びに応え、王の王、裁き主イエスは再臨される。





Ⅲ. 聖霊の働き コリント I 2章10～16節

【聖霊による啓示】 コリントー2:10~11

それを、神は私たちに**御霊**によって啓示してくださいました*。**御霊**はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。

人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかにも、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、**神の霊**のほかにはだれも知りません。

* 奥義は**聖霊**によって使徒たちに示された。

■ 新約聖書の内容を保証しているのは**聖霊**。

■ 使徒の正統性は、**聖霊**による聖書の解き明かしと数々の奇跡によって示された。



【聖霊が教えたことば】 コリントー2:12~13

しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのであります。

それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、**御霊に教えられたことば***を用います。その**御霊のことば***によって御霊のことを説明するのであります。

*口伝律法、人の教え、哲学ではなく、**聖霊が
解き明かした聖書のことば**によって!!



【聖霊に属する福音の奥義】 コリント2:14

生まれながらの人間は、**神の御霊に属すること***を受け入れません。それらはその人には愚かなこと*であり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

*この中心が、メシアの十字架の贖いと復活の福音。

*福音は、“異邦人には愚かなこと(1:23)”

■福音は、**聖霊**の助けなしには理解できないこと。

福音を理解し、信じた。それ自体が**聖霊**の業。

➔救いはすべて神の一方的な恵みだと分かる!!



【キリストの心を持っている】 コリント2:15～16

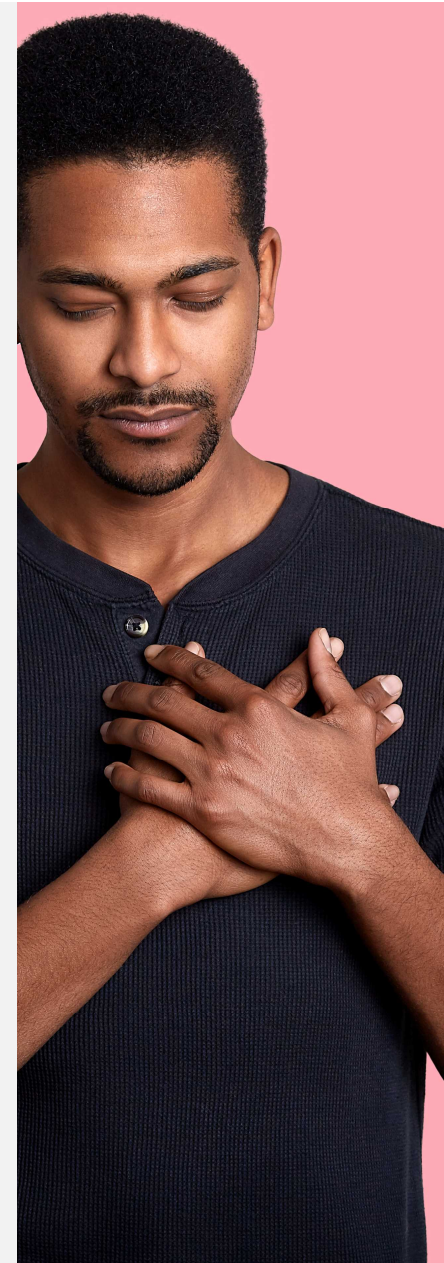
御霊*を受けている人はすべてのことを判断*しますが、その人自身はだれによっても判断されません。

「だれが主の心を知り、主に助言するというのですか。」しかし、私たちは**キリストの心***を持っています。

*“取り調べ(ルカ23:14)”

■ 聖霊の助けによって解き明かされた聖書の言葉こそ、あらゆる判断の基準となるもの。

***聖霊 = キリストの心** 聖霊が内住されるとは、キリストの心が信者の内にあるということ。





IV. まとめと適用 愚かな者に働く聖霊への信頼こそ

【愚かさとは？ 背後にある主イエスの言葉から考える】

■「心の貧しい者*は幸い(マタイ5:3)」 …山上の説教の主題。

…直訳すれば、“**靈的に(Pneuma ティ) 貧しい**”

➔人間の靈は、人間の本質。物質的にも、心も、存在すべてが、人間は本質的、根源的に貧しい。**原罪**を抱え滅びに至る存在。

■主の前に打ち砕かれ、**自分の根源的な貧しさ**を認め、とことんまで味わい尽くされた者は、すべてが主の恵みであったことを知り、あふれる喜びと幸いを得るにいたる。

■パウロのギリシャ宣教は、とことんまで貧しくされた旅だった。その最後に使わされたのが、ギリシャ最悪の放縦の町コリント。

【世には愚かな福音だけを告げたパウロ】

- アテネで弁証法を用いて異邦人に訴えたが、嘲笑で終わった。宣教の本質は、手法でなく、**福音の宣言**だと再確認しただろう。
- 相次ぐ苦難と深い孤独の中、**福音だけ**を告げるとパウロは決意。
- 最悪の宣教地コリントで、パウロはひたすら**福音**を告げ、イエスこそメシアだと聖書から解き明かした。
- 救われたユダヤ人と異邦人により、コリントの地域教会が誕生。混乱したコリント教会に、パウロは**信仰の本質**を思い起こさせる。

福音を信じ、信じ続けること。それがクリスチャンの命

【何度でも心に刻むべきは、主イエス・キリストの福音】

- 手を変え品を変え、パウロが訴えているのは、たった一つの**福音**。
- **主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、死を打ち破って復活された。**
- 私の霊肉を打ち砕き、信仰に導かれた聖霊が、私の内に住まわれる。キリストの心である聖霊に信頼して、私を変えていただこう。
- 救いの業を成し遂げられた主イエスは、裁き主として再臨され、世界を回復され、私を完全な者としてくださる。

全身全霊で主を知り、主の命令に従い、変えられていこう。

【御霊に属する人とは？ 信じ続けていくとは？】

■信じて救われた者に聖霊が内住し、御霊に属する者と変えられた。主の目には、神の御国で完全となった私の姿が見えている。

■一方、現実の私は、多くの罪を抱え、多くを肉に支配されている。自分の罪を認識し、無力さ、愚かさを覚えたなら、聖霊に託そう。

- ①自分の罪を直視する → ②無力さ、愚かさを痛感し打ち砕かれる。
- ③聖霊に委ねる → ④何かしらの行動が求められる。委ねる = 実行。
- ⑤実行する。 → ⑥自力では失敗する。委ねきるよう求められる。
- ⑥聖霊が助けてくださり、道が拓かれる。

聖霊に委ねてことを起こすなら、変化は必ず生じ、成長を促す

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。
私は、ただ主の恵みのゆえ、福音を信じて救われました。
私の内に住まわれる、ご聖霊に信頼します。
この身と心を打ち砕き、御心に適うよう、変えてください。
遣わされ、用いられ、聖霊に満たされる喜びが、私の内に、
さらに あふれだしていきますように。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年9月14日(火) 午前10時より

「コリント人への手紙第一 3章」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時10分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★今後の予定：9/28(火)、10/12(火)、10/26(火)、